



つよい子

令和7年度 学校だより

第9号

余市町立大川小学校

令和7年11月28日

【令和7年度 重点目標】 ◎ 『伝えること』を意識して生き生きと表現する子の育成
◎ 思いやりの心を持ち ルールとマナーを守る子の育成

「便利」と「省略」

校長 大山 敏広

- ◆たいへん便利な時代になりました。
私が学校に勤めはじめたのは、およそ30年前です。当時は、パソコンやインターネットがまだ目新しい時代でした。インターネットを体験するために、学級の児童みんなでバスに乗って環境の整っている施設へ出かけたことを思い出します。それが今では、学校で一人一台のタブレット端末が配られ、毎日あたり前のように利活用しています。
 - ◆インターネットの普及によって私たちの暮らしは、日々便利になっています。情報を瞬時に手に入れることができ、家に居ながら買い物も済ませることができます。物事がスムーズに、スリムに進むことが多くなりました。本当に便利な時代になりました。
 - ◆「便利」というのは、それまで行わなければならなかった行動や声に出すこと（コミュニケーション）を「省略」することによってもたらされると聞いたことがあります。もしかしたら、便利さに慣れるあまり、省略してはいけない大切なことまで省いてしまっていないかと自分を振り返ることがあります。
 - ◆特に家族や親しい間柄では、つい「そんなこと言わなくてもわかるでしょ」と甘えてしまうこともあります。いつも一緒に過ごす人であっても言葉で伝えることを省略してはいけない場面があるように思います。学校でも『ありがとう。助かったよ。すごいね。ごめんね。がんばったね。大丈夫?』等々、ほんの短い言葉に込められた温かな想いを省略することなく、伝え合える環境をつくっていききたいと思い、繰り返し子どもたちに伝えていきます。
-
- ◆11月、大川小学校の生活目標は、「思いやりの心をもって、仲よくすごそう」でした。全校朝会の中では、名探偵コナンの言葉を引用し「言葉には温かさと恐ろしさの二面性がある。使い

方を間違えると言葉は刃物になってしまう。恐ろしい凶器になる。一方で、ちょっとしたひと言で人を温かで幸せな気持ちにすることができる。」…このような話をしました。

- ◆インターネット同様にSNSの急激な発達といった時代背景もあるのでしょうか、声に出して表現することに積極的ではない子どもが増えていると感じることもあります。自分の思いを表現することは、人生を通じて必要で重要な力であると私は考えています。自分の考えや思いを伝えることにより、周囲とのコミュニケーションが潤い、そのことが巡り巡って自分に返ってきて、「穏やかで幸せである」ことを実感できるのではないかと思います。もちろん生活するという事は、晴れの日ばかりではなく、雨の日も曇りの日もあります。時には元気のない相手を言葉で温かく包み、時には誰かのひと言によって救われる、そんな「お互いさまの精神」で心地よい空間・環境を学校に関わる全ての人でつくりたいと考えています。



- ◆早いもので師走を迎えます。2025年最後の1ヶ月も引き続き、本校の教育活動に御理解と御協力をお願い申し上げます。

-
- ◆11月20日には、北海道日本ハムファイターズの今川選手、奈良間選手にお越しいただきました。プロ野球選手の姿や言葉からたくさんの刺激を受ける貴重な機会となりました。また、大川小学校の子どもたちの楽しみ上手・盛り上がり上手なところやメリハリのある行動にも感心しました。素敵な時間を一緒に過ごして下さった今川選手・奈良間選手、球団関係者、余市町関係者の皆様に感謝の気持ちです。ありがとうございました。